

ながめま 議会だより

臨時号
令和3年2月1日

長沼町プレミアム商品券事業検証結果について

議会産業建設文教常任委員会において、長沼町プレミアム商品券事業の調査・検証を進め、昨年12月11日、常任委員長より議長に対し検証結果が報告されました。内容は以下のとおりです。

1月14日開催の全員協議会で、この報告をもとに議会としての対応の協議を踏まえ、商品券の販売方法などの検証を通じ、あらゆる事態を想定したうえで再発防止に努め、今後同様の事案が生じないよう、議会として議長から町長へ申し入れを行いました。

長沼町プレミアム商品券事業検証結果報告

産業建設文教常任委員会（以下「委員会」という）では今回の長沼町商工会（以下「商工会」という）が発行した「長沼町プレミアム商品券」事業について9月4日開催の委員会から11月26日開催の委員会までの期間逐次検証、聞き取り調査等を慎重に行ってきたので、ここに検証結果を報告する。

販売までの経緯

長沼町（以下「町」という）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、町内商店等の経営環境が非常に厳しい状況にあるという内容で、事業者支援について4月から5月までの間に商工会などから3件の要望書を受けた。

この頃、町では、国から交付される地方創生臨時交付金の活用を検討しており、商工会へプレミアム商品券の発行を打診したところ、商工会の理事会で協議され発行することが決定された。このことを受け5月20日及び7月16日に開催された臨時議会に補正予算が提出され議会はこれを議決したところである。

新型コロナウイルス感染症の影響等により大きな打撃を受けている商店への支援を図ることを目的に、事業主体である商工会が地元消費の拡大・消費者支援・地域経済の活性化に向け、町内で利用できるプレミアム商品券を発行する際に、町が必要な経費を補助するというところで、町と商工会との打ち合わせを行い8月30日にプレミアム商品券が販売された。

販売日の決定

商工会理事会での協議により8月30日（日）午前10時から午後6時までの1日とし、売れ残った分については翌日以降販売会場を商工会館とし、販売すると決定される。

上限撤廃に至った経緯

8月30日の販売数が過去に実施した商品券の販売実績を大きく下回る(38.25%)結果となり残量が6割以上大量であったために8月30日夕方、商工会の臨時役員会が販売会場である町民会館で開かれ、少しでも早く商店街で買い物をしていただきたいということで翌日からの「上限撤廃」が決定された。その場に立ち会っていた町職員に聞き取り調査をしたところ「8月30日の売り上げを見ていた中で翌日以降の販売に対する不安があったことから、その場で意見することはできなかった。やはり上限の設定は必要であったと感じている。」との回答を得ている。

上限撤廃の町民への周知について

上限の撤廃については様々な意見があるが、そのことの周知方法に問題があったのではないかと。8月31日に販売会場へ行って初めて知ったという方が大半で、その方たちから情報が拡散していったのが実情である。

商工会によると、会場内に上限撤廃を周知するポスターを掲示しただけであるとの回答を得ているが、町の広報無線やホームページ、商工会の広報車等周知手段はあったはずである。今回の商品券発行に関して町民の疑念・不満の最大の要因はこのことに起因すると思われる。町、商工会にはこのことについてはきちんと検証するとともに猛省を求める。

また、告知チラシの記載にも不明瞭な点があったことを指摘しておく。チラシは誰が見てもわかりやすく同じ理解を得られるものでなくてはならない。今後、このようなことが起こらないようあえて苦言を呈す。

事業の効果

回収実績については11月20日現在、発行総額1億7,600万円のうち換金済みの金額1億2,666万4,000円。換金率にして71.97%。その中で大手といわれる町外資本が数社あり、1億2,666万4,000円のうち38.4%が町外法人、額にして4,870万9,500円。残りの61.6%、7,795万4,500円が町内企業で利用されている。

以上の回収結果からみると、当初の目的であった地域振興対策、町内小売業者に支援という目的は達成されたと評価することができるが、家計支援という観点からとらえると、一部への大量販売により全世帯分用意した中で購入希望者すべての方に行き届かなかったことについては大いに反省を求める。

総括

今回のプレミアム商品券事業については、事業主目的であった感染症拡大により売り上げ減少に疲弊している小売店支援、消費者支援、地域経済の活性化対策、という3つの目的を持った事業であることを町民の皆様に理解していただく努力が足りなかったのではないかと。また、事業主体である商工会が事業本来の目的を見失い、小売店対策を主目的としたために売り急ぐということにつながったのではないかとと思われる。当初の打ち合わせ不足がこのような事態を招いた一因ではなかったのか。

今後このようなことを二度と起こさないよう町、商工会が十分な検証をすることを望む。